

研究部の対応について

研究部 川瀬英幹

1. 研究部主催の行事について

4月から6月にかけて準備・検討を行う研究部の行事は以下の通り。

- 高大連携交流会（7月中旬）
- 高大連携講座サマースクールの開催（8月上旬）

それぞれについて、研究部がおこなった感染防止の対応を記録したい。

2. 高大連携交流会について

1) 趣旨

この行事の趣旨は、高大連携入試で合格し進学していった既卒生徒達の現状確認と、これから連携入試に臨もうとしている3年生生徒が身近な目標としての先輩達と話し、大学の情報を聞くことで、更なる意欲向上と心構えをさせるものである。

2) 実施時期

本年度については、考査期間がずれていることもあり、候補者も出そろうであろうという予測のもと、例年より10日ほど遅い7月28日（火）に実施することとなった。

3) 実施方法

在校生は教室に集合。

大学生については Zoom を使用。一部、大学に用があり登校していた学生については、直接高校に来校した。

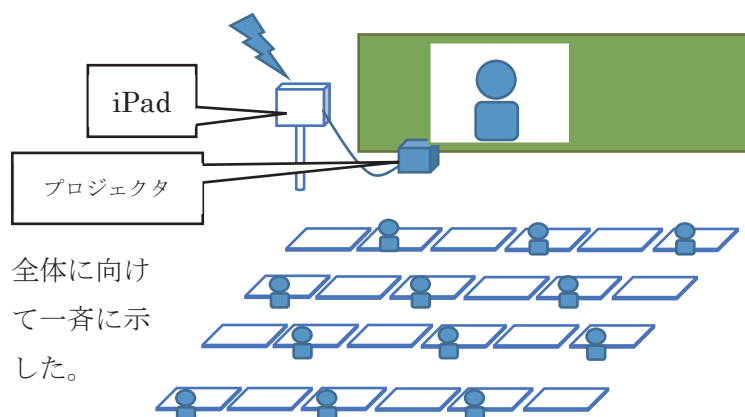
4) 交流会の流れ

前半 大学生が Zoom を利用して、高大連携入試の説明や大学生活を在校生に向けて説明。

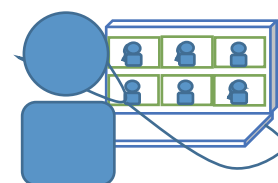
後半 Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用して、希望の教科や学系に応じてグループ分けを行い、少人数グループで情報交換。

5) 使用機器及び設置図

前半配置



後半



6) 良かった点・準備工夫した点・反省点

○良かった点について

集合率は高く、行き来も無いため、大学生の方も負担が少なかったと考えられる。

また、在校生についても、個別に相談や研究内容などについても話すことができたので、効果については例年通りであると考えられる。

○準備工夫した点について

在校生については分散授業での方法を流用しているため問題は無かった。学生については、案内のメールにおいて、Zoomを利用する点を周知し、参加可能な学生のみにインストール方法・使用方法・ミーティングIDを通知した。大学の遠隔授業において、マイクロソフトのTeamsを使用していたり、Zoomを使用していたりと、遠隔授業における使用アプリケーションが異なっていたため、丁寧な説明を用意した。その結果、ミーティングへの入室については大きな問題も出ず、およそ予定通りに集合し、会を始めることができた。

○反省点について

当日の小グループに分ける作業が繁雑で、時間がかかってしまった。

電子機器は事前に準備できる点はよいが、当日でなければできない作業もあるため、即時対応が難しいことがあるという点である。この点を失念しており、休憩時間の設定を誤ってしまい、忙しい作業となってしまった。

3. 高大連携講座サマースクールについて

1) 概要

学校パンフレットに次のように示されている。

愛知教育大学と附属高校との「高大連携教育」は、単に大学と附属高校との間だけで完結するものだけではなく、教員養成系大学の新しい人材発掘のあり方への研究のサポートを目指しています。大学のアドミッションポリシーに合致した人材の発掘を行うため、高校では基礎学力の充実を図り、大学では高校生への大学教員の講義を行っています。そして、附属高校と連携し教職への高いモチベーションを有する人材を早期に見いだし、組織的かつ継続的にその志と能力を育み、社会が求める教員あるいは社会人へと育成していく方法を探究するところが特徴です。

現在は、第2学年の希望者が受講しており、夏・冬・春の長期休業中に6～8講座ずつ受講していきます。本年度については、夏期休業中に8講座が予定されていた。

2) 準備と実施

例年であれば、終業式の日程に合わせて事前指導を実施。休業中の8月上旬に連携講座を迎えることとなっていたが、休校の影響で、1学期終業式が8月5日（水）に実施されることとなった。

そこで、事前指導を8月5日（水）終業式の午後に実施することとし、講座の開講日程は変更せずに8月6日（木）7日（金）での実施とした。

3) 実施方法

例年は、本部棟3階の会議室を使用している。200名ほどの定員の部屋ではあるが、休校解除後の検討段階では、スクール参加者及び講師等、80名程度を1カ所に集めることは難しく、また、入れる場所があったとしても、同室内に長時間いることがためられる社会情勢であったため、附属高校第2学年教室を複数箇所使用して、オンラインで講座を実施することとした。当時、大学の

前期授業は全て、オンラインまたはオンデマンド型の講座配信を行っていた。3年生の分散授業の際には、教室を二つに分けて、オンラインで繋ぐという状況を経験していたのも後押しとなった。さらに、検討当時（6月）には、第2波が早めに始まった場合を考慮し、再度休校になったとしてもこの講座を実現できるように完全にオンラインでも実施できるよう想定して計画した。

4) 準備

大学の講座担当者とメールで連絡を取り、オンラインでの使用ソフトを確認した。

大学の先生方も Zoom と Teams を使用しており、オンラインでの実施が不可能ではないことを確認することができた。ただ、教室を2箇所に分けてオンラインで繋ぐという状況を説明することが非常に困難だった。最終的に図（高大連携交流会で使用している図）を添付し、こちらのイメージを伝えた。

実際は、暑くなるに従い、新型コロナウイルスの感染拡大状況は緩和されつつあり、教室は分散だったものの、大学の先生方で、高校に来て講座を担当して下さった先生もいらっしやった。

5) 良かった点と反省点

○良かった点

実際に設定と接続さえしてしまえば、通常通りに PC を用いて講座を行っているのと変わらない状態であるため、密を避ける形で実施できた。

最終的に欠席者もなく、分散させていたものの、午前はオンラインで午後は直接担当者が来るといったように、偏ることなく受講させられた。

○反省点

担当の先生が使用するアプリケーションが違えば、切り替えが必要となるため、講座間に離れた教室間を行き来して設定しなければならなかった。

オンラインの接続時に上手く入れず、予定時間に開始できなかった講座があった。

来校して講座をしていただいた際に PC の立ち上げ→ネットワーク設定→接続→調整を実施しなければならず、休憩時間の設定が短すぎた。（この点は、当初、高校の Zoom アカウントに入室してもらっただけのイメージだったため。）

4. まとめ

本年度の新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、重要視した点は「3密」を避けることであり、その状況を作り出さないための工夫を凝らしながらの実施となった。

大学の先生方も、オンデマンド型での講座は実施したことがあるが、オンラインは初めてであるという先生もおり、事前に足を運んでいただき、打ち合わせやオンラインでの接続実験を何度も行った。その結果、大過なく終えることができたと考える。